

横浜山手中華学校の移転拡充支援について

1 横浜山手中華学校の状況

- ・1952年に横浜中華学校が二つに分かれ、山手町に移転。
- ・近年、増加する入学希望者に施設が対応できず、狭小な敷地の現在地では拡充できないことから、数年来、移転による施設拡充を検討している。

所在地	中区山手町43-2
生徒数 (H18.9.1)	計406人 (小学部240人、中学部106人、幼稚部60人)
敷地面積	敷地1243.3㎡ (うちグラウンド面積671㎡)
校舎の状況	1966年築 校舎床面積 計2382.81㎡ (1教室の面積 39.6㎡)

2 経緯

- ・平成16年 横浜山手中華学校から移転用地の確保に関して支援の要望あり。
- ・その後、土地情報の提供や調整を行うが不調に終わる。
- ・平成19年4月に横浜山手中華学校及び華僑総会から移転用地として石川町北口駅前にある吉浜町市有地の売却を求める要望書の提出あり。

3 吉浜町市有地の状況

所在地	中区吉浜町2-27他
地目・地積	学校用地及び宅地 計4204.75㎡
用途地域等	商業地域 (建ぺい率80%, 容積率500及び600%)
取得の経緯	昭和37年小学校用地として取得 (関外地区区画整理事業換地 学校計画は昭和48年3月中止) 一部は昭和54年に道路事業残地を取得。
現在の利用状況	平成4年から公共駐車場 (3053.83㎡) 及び市営駐輪場 (1150.92㎡) として暫定利用中

4 対応案

- ・吉浜町市有地を横浜山手中華学校に対して移転用地として売却 (一部貸し付け)
- ・石川町北口駐輪場は、周辺の駐車場整備が進んでいるため廃止し、石川町北口駐輪場については、同規模で継続し、上部空間を学校整備のため貸し付ける。

5 支援の意義

- ・中華学校は、中華街の魅力である華僑の文化継承を行っており、中華学校を支援することは、中華街の維持発展につながり、観光振興に寄与する。
- ・発展著しい中国企業の横浜進出を促進する社会基盤の強化となる。
- ・中国系市民の教育環境が向上し、国際性豊かなまちづくりが進展する。

6 今後の予定

- ・10月以降 財産評価審議会の評価額を基に契約に向けた調整を進める。
- ・年度内に石川町市有地の土地利用や跡地利用などに関して学校側と基本合意を交わす。
- ・年度末から20年度にかけて土地売買契約